

峰ヶ丘会報

題字 和賀井睦夫 会長

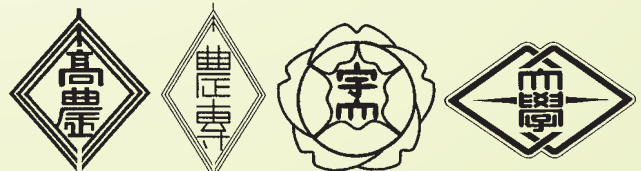
第153号 2015(平成27). 10. 1



雑草と里山の科学教育研究センター

CONTENTS

第3回ホームカミングデースナップ写真	2
会長挨拶	3
理事長就任の挨拶	3
特集 第3回ホームカミングデー	4
退職の挨拶	8
新任教員挨拶	10
追悼	12
支部総会	14
クラス会	16
支援制度による海外学会参加報告	22
平成27年度理事会報告	23
決算書・予算書	24
支部長一覧	25
お悔やみ	26
お祝い・寄贈図書	27
“こんなことやってます” (生物資源)	28



大11~昭18	昭19~23	昭24~36	昭37~
高等農林学校	農林専門学校	新制宇大	宇大校章

MINEGAOKA NEWSLETTER No.153
 The Alumni Association
 Faculty of Agriculture
 Utsunomiya University
 Utsunomiya 321-8505 Japan
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第3回ホームカミングデーのスナップ写真



受付の様子



座談会会場の様子



岩下嘉光先生のご講演



竹永博先生のご講演



玉城昌幸先生のご講演



熱心に聴き入る卒業生の皆様



現任教員を交えた座談会



ウェルカムパーティーに参加した皆様



思い出の写真・縁の品を展示する同窓会室



乾杯の音頭をとる同窓会長と岩下先生



杉田昭栄農学部長によるご挨拶



中根様（獣20卒）によるご挨拶



会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

和賀井 睦夫 (農昭25卒)

同窓生の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこの一年をふり返りますと同窓会は、財務基盤の一層の安定といった課題は残りますものの、概ね順調に会務を執行することができました。改めて、皆様のご支援、ご協力に対し厚く御礼を申し上げます。

会報発行のこの機会に、同窓会の現状について概要をご報告させていただきますと、本年3月末現在の卒業生会員は、14,670名でありまして、うち、旧制の方々は、993名となっております。国内では47都道府県に人数の違いこそあれおられまして、そのうち41都道府県には、地域あるいは職域を単位とした支部も結成されており、それぞれ母校への思いを共有しながら、親睦交流を深めておられるところであります。毎年10数県の支部からは、総会への出席要請を頂きますので、常任理事を中心に出席をし、支部活動への協力をさせて頂いております。

同窓会がとりこんでいる具体的な事業としましては、新入学生の歓迎会、理事会及び常任理事会の開催、全会員への会報の発行、会員名簿の発行、学生会員並びに教員会員の先生方を対象とした、勉強研究支援制度の実施等々であります。昨年は特別の事業として、大学と共催で卒業生を迎える、第3回のホームカミングデーを11月22日(出)に開催し、公開の座談会、ウェルカムパーティー、各学科紹介のパネル展示等を実施いたしました。

座談会は、テーマを「農学部、学び今昔」ということ

で、学びとしては、卒業生にとって思い出深い、又大学の、実学重視ということをつまえて実験、実習、演習をとりあげ、また、パネリストにはOB及び現役の若手の先生を迎えて、学びの過去、現在、それに未来について、映像を交えて語り合ってもらったところでもあります。200名近い方々に参加して頂き、関係者のご努力で、好評だったことは、何よりであったと存じます。

なおホームカミングデーは、2年に1度実施ということで、次回は明年開催されることになっております。

次に母校の近況について、ふれさせていただきますと、学長さんが、去る4月1日から、これまでの、進村武男先生にかわり、新たに石田朋靖先生が就任されました。進村先生は、任期、2期6年が、満了されたことによるご退任であります。なお、石田新学長先生は、農学部長を経験された方でございます。

もう1点は、大学の学部増設についてであります。来年4月から、従来の4学部に加えまして、22年ぶりに、新たに、「地域デザイン科学部」が、設置されることになりました。

高齢化、人口減少等新たな、地域社会の課題に対応できる文理融合型の、総合的な教育で人材育成にとりくむということで、コミュニティーデザイン、建築都市デザイン、社会基盤デザインの、3学科、合わせて、140名の定員でスタートする予定となっております。母校が、地域の中核大学として、更に進化、発展の途を歩む、その新たな第一歩となることを切に期待いたしたいと思っております。

最後になりますが、私ども同窓会は、今後とも、会の目的である会員相互の親睦と母校への貢献という、原点を常に念頭におきまして卒業生と、大学を結ぶかけ橋としての役割を果たせるよう、存在感ある同窓会をめざし、頑張っ参りたいとおもいますので、よろしくご指導、ご協力の程お願いいたし、ご挨拶とさせていただきます。



理事長就任のご挨拶

峰ヶ丘同窓会理事長

吉澤 緑 (畜昭50卒)

この度、理事長を務めるよう会長よりご指名を受けました、畜産50年卒の吉澤 緑でございます。浅学非才のこの身で大役を務められるかと不安ではありますが、会長、副会長の下、常任理事のまとめ役としてほんの一年間ですが、精一杯努力致します。

私が畜産学科に入った40数年前には30名のクラスで女性は私一人、4年生にお一人、女性の先輩がおられただけでした。同期の女子は農学科2名、林学科2名、農業経済学科2名、農芸化学で7名、開発工学科では0でした。平成3年に改組が行われ、農学科と畜産学科、農芸化学科、林学科の一部を統合して生物生産科学科が誕生し、その後20年が経過、3年前に再改組されました。現在の生物資源科学科や応用生命化学科では半数以上が女子学生で、他学科でも同じように女子学生が増えています。その様変わり

は驚きを隠せません。特に安倍政権となってからは「女性が輝く日本」というキャッチフレーズで、女性の力は我が国最大の潜在力であるとして、「女性の活躍」が成長戦略の中核に位置付けられています。農学女子、林学女子という呼称も新聞等で見られる昨今、農学の分野における女性の活躍が期待されるところです。

峰ヶ丘同窓会についてですが、本来卒業生は全員同窓生ですので、新入生全員に同窓会への入会をお願いしておりますが、6割から7割の方々しか入会いただけません。入会率を何とか上げたいと、学生支援制度の設置、父兄へ度重なるお願いなど様々な努力を致しておりますが、近年の若者は個の意識が強く、同窓意識というものをあまり持たれないようです。これが進むと、同窓会組織の運営そのものが難しくなるのではないかと危惧しております。同窓会が身近なもので自身に役立つという意識を学生に感じてもらうことが重要かと思っております。先輩の皆様方には、様々な場面で後輩の卒業生にご指導、ご教示を賜りますよう、お願い申し上げます。

農学部そして同窓会の輝く将来のために、微々たる力ですが努力したいと考えますので、会員の皆様方にはより一層のご教示、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

特集 第3回ホームカミングデー

1. 実施報告

平成26年(2014)11月22日(出)開催された第3回宇都宮大学ホームカミングデー農学部座談会は、以下のスケジュールで行われた。

I 座談会(10:30~12:00)

会場: 3101教室

10:00~10:30 受付

10:30~10:40 学長・学部長挨拶、記念撮影

10:40~12:00 座談会

テーマ『農学部の学び今昔』を語る

II ウェルカムパーティー(12:00~14:00)

会場: 大会議室および中会議室

III オープンラボ(10:00~16:00)

比較研究室、栄養制御学研究室(旧、家畜飼料学研究室)、動物育種繁殖学研究室(旧、家畜育種繁殖研究室)、動物機能形態学研究室、植物病理学研究室、植物育種学研究室(旧、育種学研究室)、応用昆虫学教員研究室III、森林生態学・育林学(旧、造園学)、森林資源利用学・木材材料学研究室(旧、林産加工学研究室)、森林工学研究室、森林計画学(旧、森林計画・計測学)

IV パネル展示(10:00~16:00)

会場: 各学科および同窓会事務室

2. 農学部座談会『農学部の学び今昔』を語る

I 学長挨拶

皆さんこんにちは。本日は諸先生方、諸先輩の皆様、宇都宮大学ホームカミングデー、今回で第3回になります。お忙しいところご参加いただきましてありがとうございます。心から感謝申し上げます。今回から大学祭、開学記念日にあわせて、ホームカミングデーを開催させていただくことにいたしました。ご了承ください。ホームカミングデー、われわれ、「おかえりなさい。宇大へ」というテーマでやっております。恩師、あるいは旧友の方から、本学の教職員、学生と時間の許す限り、宇大の過去、これまでの伝統、それから現在、そして特に最近、大学改革というのが急速に進んでおりますので、あるべき姿を含めて、話し合っただけならば、ありがたいと思いますので、今後ともご指導を宜しくお願いいたします。後ほど出てきますが、宇都宮大学オリジナルキャラクター、宇太(うーた)君を誕生させました。宇太君は、学内はもちろんそうですが、宇都宮大学にいいところがあ



ります、特に伝統ある農学部には立派なところがたくさんありますので、学内は勿論ですけれども、特に学外にアピールしてほしいという約束を、特設ステージでやりましたので、今後より宇都宮大学が、地域一環の世界に知れるようになっていくことを期待しております。今後とも、宜しくご指導をお願いしたいと思います。

II 学部長挨拶

私は、学長より一段低いところからご挨拶させていただきます(笑)。

みなさん、青春時代を過ごされた峰ヶ丘へようこそ帰られました。おかえりなさいということ、心をこめて皆さんと喜びたいと思います。今日のために、教職員、同窓会の方と実行委員会を結成しまして、さまざまな企画を練ってまいりました。みなさんに楽しい一日を過ごしていただければという企画です。さきほど紹介にありました「農学部の学び今昔」、この登壇では、古のというか、往年のというか、個性的な先生方、名誉教授の岩下先生、玉城先生、竹永先生、非常に個性的な先生であるということで、それから、若手のホープ3名が、農学のまさに今昔を語りながら、さらに皆さんのフロアとのトークを交えながら、未来へつながる農学という話になっていけば非常にいいのかなと願っています。思い出話、今の話もいいかもしれませんが、そのトークの発展については宜しく願いいたします。学長の方からもお話ありましたが、大学祭に重なっています。学生のにぎやかな雰囲気にもまれて、皆様方の青春時代、涙と笑いと、若い時の深く思想する時、そういう時代のことを、一時でも思い出しながら、皆さんの明日への活力につながっていく時間になっていけばいいかなと、私どもの企画としては考えております。みなさん、一日楽しい峰ヶ丘をお過ごしください。



III 座談会の趣旨

宇都宮大学農学部は90余年の歴史を有する伝統看板学部としてこれまで地域はもとより国の内外に多くの有為な人材を輩出してきました。第3回ホームカミングデーでは、農学部ホームカミングデー実行委員会を中心となり座談会を企画いたしました。同窓生、退職教員、現任教員、現役学生・院生が『農学部の学び』をテーマに、その過去から現在までに至る学びの情報を共有することでお互いの絆を深め、農学部の未来への道筋のヒントをとともに考えたいと思います。

農学部の学びは、現場を最も重視する実学教育であり、座学はもとより農場、演習林、学外での実習、学内実験、演習に重きを置いた独特な学びのスタイルをもっています。その『農学部の学び』の過去、現在そして未来について、映像を交えながら大いに語っていただき、これまでの宇都

宮大学の農学教育において変わったもの、変わらないものを情報共有し、未来に向けた宇都宮大学の農学教育について意見交換を行いたいと思います。

座談会では農学部を大きく「生物・化学系の学び」、「工学系の学び」、「社会科学系の学び」の分野に分けて、それぞれ特徴ある学びのスタイルの中からご来場の同窓生の皆様にとって特に思い出深い、実験、実習、演習を主な話題にして取り上げます。「生物・化学系の学び」では生物系実験、化学系実験、農場実習、演習林実習など、「工学系の学び」では測量学実習、農場実習、演習林実習など、「社会科学系の学び」では農山村調査、市場調査、農場実習、演習林実習などがあります。

以上3つの学びのスタイルごとにそれぞれの分野で教鞭をとられた名誉教授と現役で活躍中の教員の皆様にご登場いただきます。座談会では会場の同窓生、現役学生や院生などとの双方向の対話を交えながら、学生時代の思い出深いお話、現在の大学の様子など楽しいひとときをお過ごしただければ幸いです。(第3回宇都宮大学ホームカミングデー農学部座談会『農学部の学び今昔を語る』しおりより転載)

3. パネリスト・モデレータの略歴

I 【パネリスト】

・岩下 嘉光 (いわした よしみつ)

宇都宮大学名誉教授、昭和26年宇都宮大学農学部勤務、昭和43年(1968)宇都宮大学教授、養蚕学講座担当、学生部長・農学部長歴任、平成6年に定年退職、平成7年長野県信州短期大学教授・学長、平成13年長野県駒ヶ根市、駒ヶ根シルクミュージアムを設立、名誉館長として運営にあたる。

・竹永 博 (たけなが ひろし)

宇都宮大学名誉教授、農学部峰ヶ丘同窓会副会長、宇都宮大学農学部農業工学科1965年卒業、1965年宇都宮大学農学部勤務(助手)、1992年宇都宮大学教授、農業環

境工学科農業機械学担当、附属農場長3期(6年)歴任、2006年定年退職。

・玉城 昌幸 (たましろ まさゆき)

宇都宮大学名誉教授、宇都宮大学農学部農業経済学科1960年卒業、農林水産省(大臣官房企画室など)勤務後に農学部農業経済学科助手、助教授、教授を歴任。2000年定年退職、現在福島県農業短期大学校非常勤講師を務める。

・金野 尚武 (このの なおたけ)

農学部応用生命化学科准教授、専門は生物高分子材料科学、木質科学、応用糖質科学、2004年宇都宮大学農学部生物生産科学科卒業、2009年東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻博士課程終了後、岩手生物工学研究センター研究員、日本学術振興会特別研究員などを経て、2013年10月より現職。

・飯山 一平 (いいやま いっぺい)

農学部農業環境工学科准教授、専門は土壌物理学、土壌中および土壌を介した物質の輸送・保持現象の観測や予測を扱う。日本学術振興会特別研究員、(独)農業環境技術研究所特別研究員、岩手大学育児休業補助職員を経て、2009年5月より現職。

・神代 英昭 (じんだい ひであき)

農学部農業経済学科准教授、専門は農業市場論・フードシステム論(農産物の生産・加工・流通・消費の変化と相互関係)、2000年東京大学農学部農業構造・経営学専修卒業後、同大学院修士課程・博士課程を修了、2006年宇都宮大学講師を経て、2009年7月より現職。

II 【モデレータ】

・大久保達弘 (おおくぼ たつひろ)

農学部森林科学科教授、専門は森林生態学、育林学、マレーシア、タイ、中国にて里山林の更新、利用が植物多様性維持に及ぼす影響を調査、1982年宇都宮大学農学部林学科卒業後、東京大学大学院農学系研究科林学専攻修士課程修了、宇都宮大学助手、同准教授などを経て、2007年6月より現職。

4. 講演内容

生物・化学系の学び今昔

講師：岩下嘉光 先生

講師：金野尚武 准教授



特別実験(電顕観察)



最先端の機器類



化学実験



学生実験の風景



手書きの卒業論文



パワーポイントを用いた卒論発表会

工学系の学び今昔

講師：竹永 博 先生

講師：飯山一平 准教授



半世紀前の測量



現在の測量



手植え



機械植え



寝どころでの内業



植物工場

社会科学系の学び今昔

講師：玉城昌幸 先生

講師：神代英昭 准教授



総合農場での実習



現在の農村調査実習



農村調査実習
(石川県能登、1960年)



市場見学



農村調査実習
(福島県鏡石町、1995年)



演習 (フィールドワーク)

退職の挨拶



生物資源科学科 植物育種学研究室
金子 幸雄

私は、平成4年4月に生物生産科学科 応用生物学コース（植物育種学）の講師として赴任し、23年がたちました。昭和43年4月に農学科に入学し、その後の修士課程もあわせて農学部および峰ヶ丘同窓会にはたいへんお世話になりました。

私はおもにアブラナ科作物の遠縁間交雑に関して研究を進めてきました。着任以来、授業を受講してくれた学生諸君はもとより、植物育種学研究室から巣立った卒業生や大学院修了生は約180名に及びますが、皆さんとの思い出は走馬灯のごとくです。春の交配時期には朝から手元が暗くなるまで、「今日は何百花交配した」とか「今日は何組合せの個体が交配出来た」など、学生と取り組む毎日でした。私達の仕事は、交配したもののすべてが種子をつけるわけではありません。たとえばダイコンとハクサイ類との交配では、ハクサイ類を母親に用いた場合は雑種が得やすく、また用いた両親の品種の違いによっても大きく異なります。何百、あるいは何千の花を交配して1個体でも植物が得られた時のうれしさ、あの気持ちは何事にも代えがたい喜びです。一方、私は古来より日本で作られてきた野菜や花に興味があります。このため、花木のボケ、ハナショウブ、私の住む栃木市の「宮ねぎ」や宇都宮の「新里ねぎ」などを調査して来ました。このようなマイナーな作物ですが、研究テーマとして選んだ学生もおりました。学部の卒論にとどまらず、学会誌や海外での研究発表なども出来た思い出深い仕事です。ハナショウブは、選んだ女子学生が花好きで、かつ山形県出身のため、同県長井市の伝統的花卉である長井系ハナショウブの遺伝解析と色素分析に取り組みました。この仕事は、日本でも数少ないハナショウブによる博士号取得へと発展しました。ネギ類（「宮ねぎ」）は、栃木市出身の学生がまず取り組み、さらに後を継いだ女子学生と生産者の畑をまわりながら調査をしました。これは、新聞報道やテレビにも彼女と出演した楽しい思い出です。

私は千葉県の茂原農業高校に長く籍を置いておりました。そのため、千葉では同窓の先生方から多くのご指導をいただきました。宇都宮に来てからも、同窓会千葉支部総会に参加した折には懐かしい方々との再会もあり、旧交を温め得たことも思い出のひとつです。

以上のように、多くの先生方や同窓の皆様、および学生諸君に支えられた23年間でした。また、最後の二年間は同窓会理事長として務めさせていただいたことも感謝いたします。本当にありがとうございました。



宇都宮大学農学部に期待する
生物資源科学科 応用昆虫学
村井 保

2004年4月、宇都宮大学農学部生物生産科学科応用昆虫学研究室教授として赴任し、10年があったという間に過ぎ去りました。これまで、多くの方にお世話になり、支えていただき、無事退職の日を迎えることができましたことに厚くお礼申し上げます。

赴任した当初、研究室には昆虫を飼育している気配はありませんでした。細々とアブラムシを維持している程度で、これからの研究を進めるにあたって、何とも心細い状況でした。早速、前任地の独法農研機構果樹研究所で余っていたインキュベータ2台を共同研究という名目で借り受けるとともに、動物生産学コースで管理されていた鶏等の中動物飼育棟を貸していただき、昆虫の飼育体制の構築に取り掛かりました。幸い、私はアブラムシ類やアザミウマ類の系統維持システムを開発していましたので、学生さんたちとともにさらに改良を加えながら、順次維持する種類や系統を増やしていきました。多くの学生がアブラムシとアザミウマを卒業研究の材料として、管理、維持してくれました。これら昆虫は植物ウイルス病を媒介することからウイルス媒介についても研究を進めてくれました。彼らの日々の努力に感謝しています。

宇都宮大学のアブラムシ飼育体系は小林政文君の「ダイズアブラムシとジャガイモヒゲナガアブラムシに対するダイズの抵抗性に関する研究」や八島圭佑君の「アブラコバチ *Aphelinus varipes* の生態と利用に関する基礎的研究」の二つの学位論文作成に大きく貢献し、わが国でも数少ないアブラムシ研究室として学会でも注目されました。

国際学術交流として、ダイズアブラムシに関するアメリカとの二国間共同研究でパデュー大学、ミネソタ大学及びイリノイ大学に学生を連れて行きました。また、科研費基盤B（海外学術調査）で毎年、植物病理学研究室とともに、インドネシアに修士学生を連れて行くことができ、学生と楽しく過ごせたことは何よりも私を若返らせてくれるほど刺激的でした。

微小な害虫の防除は年々難しくなっています。イチゴのハダニは薬剤抵抗性が発達し、難防除害虫として栃木県でも大きな問題となっています。私たちの研究室では高濃度炭酸ガスによる防除技術を開発し、栃木県のイチゴでの実用化が始まりました。今後ハダニ以外の害虫やイチゴ以外の作物での利用が期待されています。この技術を世界中に広げるためベンチャービジネスを立ち上げました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後に、地域だけでなく、世界を股にかけて活動し、注目される宇都宮大学農学部であることを祈念します。



生物資源科学科 応用昆虫学
高橋 滋

昭和53年5月、突然、私の勤務先の長野市にある八洲化学研究所に私の運命をかえた一本の電話があった。この電話は恩師である宇大農学部農学科の田中正先生からであった。その内容は、青天の霹靂である助手として宇大に来ないかというものであった。私の宇大学生時代は、成績はよくなく研究者タイプではなく、いわゆる昆虫マニアであった。直接、田中先生からは私を指名した理由は聞いてはいないが、おそらく、私の虫好きとソフトボール好きが理由であることは間違いないと思っている。ちなみに田中先生は大のソフトボール好きで、学生とともに昼休みは毎日グラウンドに出て、ゲーム形式のフリーバッティングを日課として楽しんでいました。

この話を二つ返事で引き受け、同年の7月に赴任し、今年の3月まで、36年と9か月勤務し、さらに学生時代の学部と大学院を加算すると約43年間の長きにわたって宇大に籍を置いたことになる。しかし、昼休みのソフトボールは田中先生の退職とともに毎日ではなくなり、当時農学科の先生方を中心に始まっていた硬式テニスに誘われ、テニスコートで昼休みを過ごすことが多くなった。

教員時代での思い出では、学生時代所属していた生物研究会、宇大に入学した二人のいとこの一人が所属していた天文星座研究会と私の授業の自然観察入門の聴講学生が立ち上げた虫食研究会の顧問を引き受けて、学生の課外活動の支援をしたのも私の数少ない業績の一つと考えています。

私が生物研究会の顧問をしていた数年間、今のコスモスではなく、峰ヶ丘講堂に部室があり、24時間使用可能で、朝早く活動するときには部室で仮眠をとることもあったようです。ある日の未明、講堂の写真部付近で発生した火事を、中国語を勉強しながら宿直中の生物研究会の会員が発見し、数人のバケツリレーで消し止め小火ですませ、講堂を守ったことはあまり知られていない出来事で、講堂の歴史に留めたい事実であります。



今年度定年退職予定の教員

平成28年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。なお、電話番号は平成28年3月31日まで、メールアドレスは退職後も有効です。

菅原 邦生先生：生物資源科学科 028-649-5441
sugawara@cc.utsunomiya-u.ac.jp

吉澤 緑先生：生物資源科学科 028-649-5433
midoriy@cc.utsunomiya-u.ac.jp

入学式および保護者説明会

平成27年度入学式が、4月4日(土)午前10時から宇都宮市文化会館で行われ、農学部には230名の方々が入学されました。午後2時から、大学農学部3101教室を会場にして、農学部主催の新入生保護者説明会が行われ、200名近い保護者が参加されました。同窓会からは、和賀井会長が出席して、同窓会の概要や実施している事業の紹介を行いました。

新入生歓迎会の開催

平成27年度農学部新入生歓迎会を、4月6日(月)午後4時30分から、大学会館内生協食堂において開催しました。アカペラサークルU-Micの大学歌斉唱で始まり、会長挨拶、同窓会や学生支援制度についての説明の後、杉田学部長から乾杯の挨拶をいただき、懇親会を行いました。途中先輩の挨拶による歓迎の言葉や歓迎の歌等も披露されました。新入生は165名が参加し、教員、院生、学生評議員の参加も多く、盛会でした。

新入生歓迎会での先輩スピーチ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんが新しく宇都宮大学農学部の仲間になることを心からお待ちしていました。皆さんはきっと、これから始まる大学生活、また大学院生活に期待と不安を抱いていることと思います。皆さんは大学を、どんな所だと思っていますか？

大学は中学校や高校とは違って、基本的にすべて自分で管理しなければなりません。授業の時間割も自分で組まなければならないし、テスト対策のための問題集もありません。自分で色々な情報をサーチして動かないといけなくて、今までの学生生活とはかなりギャップを感じると思います。逆に、自分で動けばいくらでも新しい情報を得られたり、学べたりします。1、2年のうちは、比較的自分の時間が持てるので、その時間を利用して自分自身のための勉強をするなど、いろいろな体験をすると思います。

真面目なことばかり話してしまいましたが、もし困ったことがあれば親身になって一緒に考えてくれる先生も先輩も、農学部にはたくさんいらっしゃいます。先生も気さくな方が多く、相談にものってください。

また、サークルやバイトでは大学とはまた違った人間関係を作ることもできて楽しいですよ。大学では自分の興味を広げることもできるので、さまざまな分野を楽しんでみてください。



大学生のうちにはしかできないことがたくさんあります。自分にしかできない大学生活を送れるよう、頑張ってください。皆さんの今後の活躍とご発展を心から祈っています。農学部生物生産科学科4年

池田 結実

新任教員あいさつ



福森 理加

所属・職種：農学部 附属農場
助教
専門：家畜栄養生理学

2014年4月に農学部附属農場に助教として着任しました福森と申します。島根県江津市で生まれ、高校卒業後、広島大学生物生産学部に入りました。広島大学では大学・大学院（博士課程前期・後期）と9年間過ごし、学位を取得後、茨城県つくば市の農業・食品産業技術総合研究機構・畜産草地研究所で1年間ポスドクとして研究に従事しました。この度、宇都宮大学に参りましたので、皆様にご挨拶申し上げます。

私の専門は家畜栄養生理学で、ウシやヒツジといった反芻動物を対象に、動物個体を用いて「栄養素に対する個体の反応」、「成長・泌乳を調節する内分泌機能の解明と応用」、「飼料添加物の有用性評価」などについて研究を進めてきました。日本の畜産経営は飼料自給基盤が乏しいことから不安定な状況にあります。私はこのような問題に対して、飼料や飼料に含まれる栄養素に対する生体内の消化・吸収・代謝過程を理解することで、排泄や疾病による損出が少なく、効率の高い生産管理方法へ応用し、貢献してゆきたいと考えます。

大学時代から恩師、先輩、後輩、友人に恵まれ、ウシやヒツジからたくさんのお話を学びながら今に至ります。今も変わらず、附属農場では乳牛や肉牛、ヒツジたちに囲まれて学生達と一緒に実習や研究をしています。附属農場では生物資源学科をはじめとする農学部学生や宇都宮大全体の学生を対象に実習指導をしています。手足を動かすことを大切に、農学部生として、そして動物を利用して生きる人間として学んで欲しいことを伝えるよう心がけています。また、附属農場は教育関係共同利用拠点に認定されており、多くの非農学系学生に対しても実習指導を行っており、このような実習を通して多くの人に農業の大切さを感じてもらえることに大きな喜びを感じます。自分が学生時代にいただいた経験とそれを通じて感じたことを学生に上手に伝えられたら、と日々考えながら教育活動に取り組んでおりますが、教職員・大学関係者の皆様には今後ともご指導ご鞭撻いただくと幸いに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



林 宇一

所属・職種：農学部 森林科学科
助教
専門：林業経済学

2014年10月に森林科学科森林社会科学分野の助教として

着任いたしました、林と申します。出身は東京都で、一時期海外に居りましたが、博士課程修了まで基本的に東京に居りました。このたびご縁があり、宇都宮大学農学部勤務することとなりましたので、ご挨拶申し上げます。

私の専門は林業経済学という分野で、主に社会科学の視点から林業や森林管理、そしてその周辺を含めた領域を研究対象として分析しております。私はその中でも比較的量的分析についてこれまで取り組んでまいりました。学部時代は和紙を、修士課程時代は木材需給に関して研究を行ない、博士課程からは林業労働に関して研究を進めております。林業労働は、その名の通り、特に林業という産業の中でも労働者の方や、労働環境・条件等に焦点を当て、研究をする分野となります。近年、林業にはこれまで以上に林業経験がほとんどない方達が新規就業者として入ってきております。それによって、また新たに様々な問題が見いだされるようにもなりました。これらのことに焦点を充てつつ、研究に取り組んでおります。

宇都宮大学農学部森林科学科は実習を重視し、実学としての森林科学に取り組み、また組まれるカリキュラムも大変体系だったものとなっており、そのような中で一刻も早く職責を果たせるように成長してまいりたいと思っております。また、身に着けたこと、考えていることを踏まえ、学生に良いアドバイスができるようにも取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



田村 匡嗣

所属・職種：農学部 農業環境工学科
助教
専門：食品工学、食品化学、感性工学

2014年10月1日に農業環境工学科食品流通工学研究室に着任いたしました、田村匡嗣と申します。神奈川県相模原市に生まれ、明治大学農学部農芸化学科を卒業後、千葉大学大学院園芸学研究所、Massey 大学 Riddet 研究所などで5年間過ごして参りました。このたび、宇都宮大学に勤務することとなりましたので、皆様にご挨拶申し上げます。

私の専門分野は食品工学で、農産物が収穫されたのちに加工や調理されて食品として摂取・消化されるまでを研究対象としています。近年我が国では、健康志向や食品偽装問題を背景に、高品質な農産物・食品の需要が増加しています。一方、超高齢社会に突入し、口から食べることができなければ生きる意欲を失う高齢者も多いことから高齢者向けの調整食や嚥下困難者用食品への対応が必要となっています。そのため研究室では「収穫後農産物の品質保持と評価方法の確立」、「高齢者向けの調整食や嚥下困難者用食品の検討」、「食品加工がおいしさや消化性に及ぼす影響の

解明」を目的として研究に取り組んでいます。教育に関しても学生に近い立場から、食に関する知恵と技術を修得し、主体的で活動的な学生の育成に力を注ぎ、学生が充実したキャンパスライフを送れるように努めて参ります。また様々な分野でご活躍されている先生方と協力しながら、研究・教育活動と地域社会への還元を進めていきたいと思っております。

研究と教育、そして大学や地域社会の発展のため、浅学非才の身ではありますが精一杯邁進いたします。どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



鈴木 智大

所属・職種：農学部

バイオサイエンス教育研究センター
准教授

専門：天然物化学・生化学・生命情報学

2015年6月にバイオサイエンス教育研究センターの准教授として着任しました鈴木と申します。私は静岡県出身で、高校を卒業後静岡大学農学部応用生物化学科に入学し、博士課程まで進学しました。その後は主に同大学の遺伝子実験施設にて従事し、自身の研究も行いながら、研究支援・公開講座を行ってきました。この度宇都宮大学に勤務することとなりましたので、皆様にご挨拶申し上げます。

私は「きのこ」に関する研究を行っており、主に「スギヒラタケ」と「冬虫夏草（サナギタケ）」に関する研究を行っています。スギヒラタケは東北、北陸、中部地方を中心に広く食用とされてきましたが、2004年以降、スギヒラタケの摂食者が急性脳症を発病しました。現在天然物化学的手法を用いて、スギヒラタケの毒物質の探索を行っています。また、冬虫夏草は昆虫などから生じるきのこの総称で、その一種であるサナギタケは鱗翅目昆虫の蛹の病原体です。この菌の感染から寄生そして子実体形成における詳細なメカニズムは未だ不明なため、次世代シーケンサーを用いた網羅的解析を行い、その解明に取り組んでいます。

生まれも育ちも静岡の私にとって初めての宇都宮は少し不安な部分もありましたが、自然が豊富で子ども達が走り回れる環境も多く非常に充実しています。また、宇都宮大学の学生は授業・研究に対する姿勢がとても熱心であると思いました。まず私自身が研究者として日々努め高めることを意識し、研究・教育を通じて社会活動に必要な能力を備えた人材を育成していきたいと思っております。最後になりましたが、宇都宮大学および地域の発展に貢献できるよう精一杯努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



安藤 益夫

所属・職種：農学部 農業経済学科
教授

専門：農業生産組織論

私は1979年の卒業生で、本年4月から農業経済学科の後輩たちと一緒に勉強することになりました。36年ぶりの母校は外観も内容も隔世の感があり、正直なところ『浦島太

郎』状態です。私の学生時代（1970年代後半）は、全国的にはすでに学生運動は終末を迎えていましたが、何故か？宇大はヘルメット学生の意気が盛んで、前期試験中止や機動隊導入という歴史的事件に遭遇しました。個人的には彼らの主張や行動様式に疑問を感じておりましたが、その反面、大学や社会のあり方に強い関心と憤りを持つ彼らに比べて、自分の幼稚さと主体性の無さを否応なしに自覚させられたことを記憶しています。また、当時の農学部は農家子弟が多く、女子学生は少数派でしたが、今や非農家出身者がほとんどで、半数近くが女性という変貌ぶりです。「農」を取り巻く環境や意識の変化を今さらながら実感しています。

私はこれまで農水省傘下の研究機関において、国内では中国や東北の中山間地域、海外ではタイやラオスの貧困地域をフィールドとして実践的な研究をしてきました。若い後輩諸君には、これら各所で得られた体験や知見をもとに、自分の頭で考えることの大切さや学問の楽しさを伝えてゆきたいと思っています。最後に、宇都宮高等農林学校以来、90有余年の歴史と伝統をもつ宇大農学部の一員として、実践性を重んじる学風を次世代に継承・発展させるお手伝いを微力ながらしてゆきたいと思っています。



宮川 一志

所属・職種：農学部

バイオサイエンス教育研究センター
准教授

専門：生態進化発生学、環境科学

2015年6月にバイオサイエンス教育研究センターの准教授として着任いたしました宮川と申します。神奈川県出身で2006年に慶應義塾大学理工学部生命情報学科を卒業、2008年に同理工学研究科修士課程を修了いたしました。その後2011年に北海道大学大学院環境科学院で学位を取得し、愛知県岡崎市の基礎生物学研究所の研究員を経て、このたび宇都宮大学に参りましたので、一言みなさまにご挨拶申し上げます。

私は主にミジンコなどの節足動物を使用し、生物の複雑な環境応答がどのような分子機構で制御されているのか、そしてまたどのようにして進化の過程で獲得されてきたのかを解明すべく研究をおこなっております。中でも天敵であるボウフラがいるときのみミジンコがトゲを生やして防御する「誘導防御」は、異種の情報が生物の発生過程までも改変してしまう大変ダイナミックな現象であり、大学院生時代より興味をもって取り組んでいるテーマです。研究を進めれば進めるほど、私たちが普段見過ごしてしまうようなちっぽけな生物が驚くほど複雑で精巧な生命システムを有していることに気付かされます。今後は研究を通して生物の奥深さ、面白さを社会に伝えるとともに、生物と私たちの生活の深い関わりについての理解も深めていきたいと考えています。

宇都宮大学の学生は皆勤勉で、またキャンパスも緑豊かで素晴らしく、ここでの新しい生活に胸が膨らんでおります。最後になりましたが、みなさまには今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



閻美芳

所属・職種：雑草と里山の科学教育研究センター
講師
専門：環境社会学・農村社会学

2015年3月に雑草と里山の科学教育研究センターに着任しました閻美芳（ヤンメイファン）です。中国山東省の農村出身で、1999年に青島海洋大学外国语学院日本語学科を卒業しました。同年の9月から、北京外国語大学日本学研究中心センターに進学し、2004年3月修士課程を修了しました。2007年、早稲田大学人間科学研究科の博士課程、早稲田大学人間総合研究センターの招聘研究員などを経て、この度、宇都宮大学に勤務することになりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

すでに述べたように、私の生まれは中国の農村で、一生「農業・農村・農民」にかかわる仕事をするのが夢でした。今まで、日本ではIターン者（都市から農村に移動して、就職・定住する人びとのこと）による有機農業の実践と地域社会の対応について、中国では、農村都市化政策の農村地域に与える影響について、環境社会学と農村社会学の角度から研究してきました。日本と中国は文化、歴史、社会制度が異なるため、単純な比較に意味はありません。しかし他方、比較の視点を持つことで、ひとつのフィールドだけに拘泥するのとは異なる天地が見えてくると自覚をしています。例えば、有機農業を一つ取り上げても、日本の有機農業は、1970年代の市民運動・消費者運動に影響され、近代化に対するアンチテーゼのような「思想性」を有しています。対して、中国の有機農業にはこのような「思想」の洗礼を受けていないので、最初から付加価値の高い農産物、アグリビジネスの一つとして大手企業によって推進されました。そのため、中国では、日本では耳にしたことのない「有機農薬」も開発され、有機野菜づくりに使われています。私の専門は社会学なので、有機農業という新たな農法の導入が地域社会にどのような影響を与えているのか、それがいかにして地域再生につながるのかについて、研究を進めています。

雑草と里山の科学教育研究センターでは、新たに創設した「地域資源開発部門」の講師として、日本と中国の里山をフィールドに地域社会の地域資源に対する意味付けの把握、地域資源を地域活性化に結びつける取り組みなどをテーマに、研究を深めていきたいと思っております。最後になりましたが、宇都宮大学ならびに地域社会の発展に貢献できますように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。



雑草と里山の科学教育研究センターのエントランス

追悼



森谷憲先生を偲ぶ

宇都宮大学名誉教授、森谷憲先生には、平成27年5月5日、百有余年のご生涯を静かに閉じられました。先生は1914年山形県寒河江市に誕生され、1935年宇都宮高等農林学校を卒業されました。その後、台湾総督府糖業試験所に勤務

され、サトウキビの細胞遺伝学的研究と育種に従事されました。終戦とともに帰国され、1948年から宇都宮大学農学部勤務されました。1950～60年代、ムギ類のゲノム分析を基に提唱された倍数性育種法が種子繁殖性作物で展開されました。一方、先生は、先に台湾で育成したサトウキビの多収性優良系統（POJ）の間にみられる異数性を精査・研究し、栄養繁殖性作物の異数性育種法を提唱されました。これらの研究成果は英文で十数編にまとめられ、学会誌に掲載されるとともに、農学博士（北海道大学）の学位論文としても取りまとめられました。

1962年当時、先生は専門科目「遺伝学」と「生物学」を講義されていました。毎回、植物の精緻なカラーズライドが映写され、それらの植物学的特性に加えて、染色体の倍数性や異数性についても詳しく解説してくださいました。先生は永く生物研究会（生研）の顧問を務められました。夏の登山・植物観察と冬のスキー合宿は生研の年中行事でした。地下タビを履かれ、古風なリュックを背負い、愛用のカメラを携えて山中で植物観察をしておられるスナップ写真をよく拝見しました。先生は、スキーで公認一級を取得され、国内はおろか海外にもお出かけになり、その腕前はご高齢になられるまでなお健在であったと伺っていました。

植物学者牧野富太郎先生に師事し、植物の調査・研究に専念させていた先生は、1971年には生物学担当の教授として教養部に移られました。生物学関連の教育・研究のかたわら、県立博物館の創設と運営に携われ、自然保護や文化財保全活動を先導されました。2010年4月の大学ホームカミングデーには全大会に出席された上、農学部の懇親会にも参加され、古き良き時代を思い出しておられました。当時、県内各所で発見されたコウホネ（沼沢に自生するスイレン科の多年草）の系統分化について篤く語られ、DNA解析の必要性を説いておられたのが、私には最後のお姿となってしまいました。

ここに会員の皆さまとともに先生のご遺徳を慕い、心からご冥福をお祈り申し上げます。

（新農学科第14回生 松澤 康男）





閻美芳

所属・職種：雑草と里山の科学教育研究センター
講師
専門：環境社会学・農村社会学

2015年3月に雑草と里山の科学教育研究センターに着任しました閻美芳（ヤンメイファン）です。中国山東省の農村出身で、1999年に青島海洋大学外国語学院日本語学科を卒業しました。同年の9月から、北京外国語大学日本学研究センターに進学し、2004年3月修士課程を修了しました。2007年、早稲田大学人間科学研究科の博士課程、早稲田大学人間総合研究センターの招聘研究員などを経て、この度、宇都宮大学に勤務することになりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

すでに述べたように、私の生まれは中国の農村で、一生「農業・農村・農民」にかかわる仕事をするのが夢でした。今まで、日本ではIターン者（都市から農村に移動して、就職・定住する人びとのこと）による有機農業の実践と地域社会の対応について、中国では、農村都市化政策の農村地域に与える影響について、環境社会学と農村社会学の角度から研究してきました。日本と中国は文化、歴史、社会制度が異なるため、単純な比較に意味はありません。しかし他方、比較の視点を持つことで、ひとつのフィールドだけに拘泥するのとは異なる天地が見えてくると自覚をしています。例えば、有機農業を一つ取り上げても、日本の有機農業は、1970年代の市民運動・消費者運動に影響され、近代化に対するアンチテーゼのような「思想性」を有しています。対して、中国の有機農業にはこのような「思想」の洗礼を受けていないので、最初から付加価値の高い農産物、アグリビジネスの一つとして大手企業によって推進されました。そのため、中国では、日本では耳にしたことのない「有機農薬」も開発され、有機野菜づくりに使われています。私の専門は社会学なので、有機農業という新たな農法の導入が地域社会にどのような影響を与えているのか、それがいかにして地域再生につながるのかについて、研究を進めています。

雑草と里山の科学教育研究センターでは、新たに創設した「地域資源開発部門」の講師として、日本と中国の里山をフィールドに地域社会の地域資源に対する意味付けの把握、地域資源を地域活性化に結びつける取り組みなどをテーマに、研究を深めていきたいと思っております。最後になりましたが、宇都宮大学ならびに地域社会の発展に貢献できますように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いたします。



雑草と里山の科学教育研究センターのエントランス

追悼



森谷憲先生を偲ぶ

宇都宮大学名誉教授、森谷憲先生には、平成27年5月5日、百有余年のご生涯を静かに閉じられました。先生は1914年山形県寒河江市に誕生され、1935年宇都宮高等農林学校を卒業されました。その後、台湾総督府糖業試験所に勤務

され、サトウキビの細胞遺伝学的研究と育種に従事されました。終戦とともに帰国され、1948年から宇都宮大学農学部勤務されました。1950～60年代、ムギ類のゲノム分析を基に提唱された倍数性育種法が種子繁殖性作物で展開されました。一方、先生は、先に台湾で育成したサトウキビの多収性優良系統（POJ）の間にみられる異数性を精査・研究し、栄養繁殖性作物の異数性育種法を提唱されました。これらの研究成果は英文で十数編にまとめられ、学会誌に掲載されるとともに、農学博士（北海道大学）の学位論文としても取りまとめられました。

1962年当時、先生は専門科目「遺伝学」と「生物学」を講義されていました。毎回、植物の精緻なカラーズライドが映写され、それらの植物学的特性に加えて、染色体の倍数性や異数性についても詳しく解説してくださいました。先生は永く生物研究会（生研）の顧問を務められました。夏の登山・植物観察と冬のスキー合宿は生研の年中行事でした。地下タビを履かれ、古風なリュックを背負い、愛用のカメラを携えて山中で植物観察をしておられるスナップ写真をよく拝見しました。先生は、スキーで公認一級を取得され、国内はおろか海外にもお出かけになり、その腕前はご高齢になられるまでなお健在であったと伺っていました。

植物学者牧野富太郎先生に師事し、植物の調査・研究に専念させていた先生は、1971年には生物学担当の教授として教養部に移られました。生物学関連の教育・研究のかたわら、県立博物館の創設と運営に携われ、自然保護や文化財保全活動を先導されました。2010年4月の大学ホームカミングデーには全大会に出席された上、農学部の懇親会にも参加され、古き良き時代を思い出しておられました。当時、県内各所で発見されたコウホネ（沼沢に自生するスイレン科の多年草）の系統分化について篤く語られ、DNA解析の必要性を説いておられたのが、私には最後のお姿となってしまいました。

ここに会員の皆さまとともに先生のご遺徳を慕い、心からご冥福をお祈り申し上げます。

（新農学科第14回生 松澤 康男）





内藤俊男先生を偲ぶ

内藤俊男先生は平成26年2月10日に88年の御生涯をお閉じになりました。ご家族から一年祭を済ませましたと連絡をいただいたのが、お亡くなりになった一年後の本年の2月でした。そのため大学、同窓会等への連絡が遅れました。先

ずはお詫び申し上げます。

先生は東京大学農学部大学院を昭和26年3月に修了され、同年5月に大蔵省（現在の財務省）に入省されました。昭和30年7月に宇都宮大学農学部総合農学科へ常勤講師として着任されました。その後、昭和35年3月には同学部助教授に昇任、昭和43年7月に同学部教授に昇任されました。ご専門は農業動力学で農用トラクタ、農用エンジン等に関する研究テーマや教育にご活躍になりました。

先生は着任時には総合農学科に所属されました。しかし、昭和41年に総合農学科は農業工学科に吸収合併されて農業開発工学科と改称されました。そこで、先生は農業開発工学科の所属となり、私たちの授業もご担当になることになりました。同時期3年生になった私は先生の講義を受講させていただくことになりました。そして、2年後に私は農業工学科を卒業し、農学研究科の農業開発専攻へと進学いたしました。この頃には新しいビルが新設され、私の所属する農業機械研究室と内藤先生の農業動力学研究室とは隣同士になり、研究室同士の繋がりも密でありました。大学院時代は、自分の研究テーマとは別にかんがいの比率で先生の研究テーマや教育のお手伝いさせていただきました。これがご縁で大学院修了の2年後、先生の研究室に助手定員ができたため、農業動力学研究室の助手として着任致しました。そして先生がご退官になる平成3年3月まで、約20年間ご指導いただき、ご一緒させていただいた次第です。今では先生の主要研究であったトラクタの耕うん効率の研究を学生と共にお手伝いさせていただいたことを懐かしく思い出します。先生は退職後パーキンソン病を患われ、ご苦労も有ったようですが、ご家族と平穏な時間を過ごされ、眠るように逝かれたとのことでした。また先生は平成18年に叙勲をお受けになりましたので、宇都宮で祝賀会を開催することを計画しましたが、宇都宮まで出向くのは難しいとご家族よりお断りがありました。それでは親しい者達でご在住の横浜に向いて御祝いをと計画しましたが、その矢先私の母が亡くなり、お寺であることから葬式・その他法要の一切を自分で計画し、仕切らなければならず、大変多忙の日々であったことから、実行出来ませんでした。思えばそれが心残りと言えましょうか。最後になります先生との長いお付き合いどうも有り難うございました。心から感謝し、ご冥福をお祈り致します。

（農業工学科 43年卒 中島 教博）



細川明先生を偲ぶ

細川明先生は平成27年4月6日に心不全でお亡くなりになりました。先生は、宇都宮大学農学部が創設された年と同じ1922年生まれで、92年の生涯を閉じられました。

先生は、東北大学工学部機械工学科を卒業後、札幌北海道興農公

社に入社されましたが3年で退社し、私立酪農学園短期大学に講師として着任しました。そして助教授のときアメリカのコネル大学に留学し、Ph.D.の学位を取得され帰国し、1962年同大学の教授に昇任されました。そして東海道新幹線が開業した1964年、東京大学農学部農産機械学（現生物プロセス工学研究室）の初代教授として着任しました。それから定年（60歳）までの19年間、研究・教育に尽力され、優秀な人材を育成したり、農業機械学会の会長を務めたり、さらに得意の英語力を駆使して国際協力にも貢献されました。

宇都宮大学には、東大定年直後の1983年の4月から来て頂きました。当時、先生の住居は埼玉県川口市でしたので、通勤は大変だったと思います。担当される「農業機械学」は金曜日の1時限目でしたが、前夜は研究室に泊まって翌朝の授業に臨んでいました。そして多人数の出欠を取るのに時間が掛かるので、タイムレコーダで処理していました。また4階の研究室に自記温度計を設置し、夏のクーラーの必要性を事務に交渉したりしました。また着任された頃の宇大教員の定年は63歳でしたが、在職中に65歳になり、予定の宇大在職年数が2年長くなってしまいました。

先生には、学科の宇大OB教員への学位取得のご指導をお願いし、大変お世話になりました。当時、私を含め数人のOB教員がいましたが、学位（博士）取得者がいませんでした。先生は、私に、実験計画から指導して頂き、その計画の見通しがつくと、東大への内地留学を勧めいただき、その結果、博士を取得することができました。

土木系の教員に対しても、東大との中継役を買って出ていただき、結果的には全教員学位を取得することができました。

私が定年退職後、名誉教授を戴けたのも、偏に先生のお陰と思い、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。

（農業環境工学科 圃場機械学研究室
農工40年卒 竹永 博）



支部総会（6支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思っております。お問い合わせは、P.25の支部長一覧をご参照下さい。

TOKYO

東京支部総会

林学科東京同窓会「船生会」の開催

平成27年3月11日、林学科東京地区同窓会である「船生会」の総会が、小石川後楽園「涵徳亭」において開催されました。当日は、本部から森林科学科大久保達弘教授においでいただき、会員24名の参加という盛会なものとなりました。これは一昨年の本部同窓会名簿の作成を機に、新期会員の掘り起こしを図った成果といえます。なお、現在の船生会会員は100名にのぼります。

総会は、大槻会長（昭和45年卒）の開会挨拶に始まり、議案の審議が行われ、役員改選によって新たに外山会長（昭和52年卒）が選出され無事終了しました。

総会に続いて懇談会に移り、大久保教授から大学の近況のご説明をいただき、後輩達の活躍の様子を知ることができました。また、伝統の「林科の歌」が現役世代では幻となっているとのことで大久保教授の要請を受け有志による合唱が披露されました。この歌声はしっかりと録音していただきましたので現役世代による復活を期待しています。

宴が盛り上がる中、参加者中最上級の川口会員（昭和37年卒）により締めが行われ、懇談会も無事に終えることができました。

幹事 矢部 三雄



KANA
GAWA

神奈川支部総会

平成26年度

前日の氷雨が嘘のように晴れ上がった、3月22日(日)午後3時から、平塚駅前の「平塚プレジール」において、峰ヶ丘同窓総会神奈川支部の総会が34名の参加と本部より大栗行昭教授（農経院S58卒）を来賓に招き、開催されました。

冒頭の桑江孝和支部長（農経S45卒）の挨拶に続き、総会議案の審議に入り、農学部学科編成の変更に伴う事務局体制の変更と総会開催年を現在の隔年から2年置きにすることに決定しました。

引続き開かれた懇親会は、出席者最年長の堤道雄氏（農化S23卒）の乾杯の発声で始まり、小林直介氏（農工S30卒）のハーモニカ伴奏で、高等農林校歌、大学校歌を斉唱して往時を懐かしみました。

大栗教授からは、変貌する大学と近隣の地域の様子の説明をいただき、驚きの声があがりました。

農場生産物の「宇ドン」焼酎「宇大浪漫」ユルキャラ

「宇～太の消しゴム」等の抽選会に続き、谷口寛氏（畜産S30卒）の手品の披露と昭和24年の農学部の大火災の際に焼け残った本の紹介があった頃には懇親会も大盛会となり、寮歌、寮逍遙歌、農業土木科逍遙歌など懐かしい歌の披露が次々と続き、予定時間を30分もオーバーしての閉会となりました。

「友あり遠方より来る、また楽しからずや」3年後の再会を約束しての解散となりました。

幹事 広石 博仁（農経S48卒）



GUNMA

群馬支部総会

平成26年度

群馬県支部総会は、平成26年11月14日、前橋市内において本部より金子幸雄理事長（S47年農学科卒）を迎え、盛大に開催されました。

当日は、県内各地から会員58名の出席をいただき、嶋方徳郎副支部長（S43年総合農学科卒）の開会、二見秀隆支部長（S44年林学科卒）の挨拶に引き続き、来賓の金子理事長からはスライドによる大学の近況報告とご祝辞をいただきました。

次いで、出席した中で最年長の中嶋朗大先輩（S33年農学科卒）による乾杯の発声で懇親会が始まり、大学時代の思い出話などに花を咲かせました。

途中、中山ちささん（H23年森林科学科卒）をはじめ初参加者4名のフレッシュな自己紹介や、校歌・コチャ工節の大合唱で盛り上がり、最後に萩原俊作副支部長（S45年農業工学科卒）の締めにより、来年の再会を約束しお開きとなりました。

今年も11月に開催予定ですので、群馬県在住の同窓生の皆さん、ご参加をお待ちしています。

幹事 片山 茂（S57年農業開発工学科卒）



OKA
YAMA

岡山支部総会

平成26年度

平成26年11月9日(日)岡山駅北の「まつのき亭」で開催しました。

最長老の岡田先輩(昭和19・土)磯先輩(昭和34・林)齊藤支部長(昭和42・林)ほか4名の総勢7名で楽しく歓談しました。92才の岡田先輩を筆頭に、気が付けば参加者全員が60才以上になっていました。

宇大在籍年度は違えども、各自の思いで深い学生生活を語り合い、現在の心境を語り合い、有意義な時間でした。

お互い「健康に留意」して、再会を期してお開きとなりました。

私事ですが、宇大時代から今もって「サイクリング」が趣味です。NHKの番組で、火野正平さんが自転車で宇大「フランス式庭園」を訪れたシーンは感激でした。

幹事 酒井 哲(S51林卒)

HUKU
SHIMA

福島支部総会

平成26年度

平成26年11月29日(出)に郡山市の「郡山ビューホテル」で52名が出席して福島県支部の総会を開催しました。総会では、星恒徳支部長(総農S40卒)が「今年も県内各地から幅広い年代の会員が出席して開催することができた。一層出席者を増やすためにもこの会をより楽しいものにしよう」と挨拶し、来賓として本部から出席された吉澤緑教授(畜S50卒)からは、学内各施設の整備状況、学科の改組や新学部設立の動き、第3回ホームカミングデーなど大学の近況を紹介していただきました。

また、支部役員の改選(任期2年)が行われ、支部長には引き続き星恒徳さんが、理事には、新任の坂本大さん(畜S42卒)と磯武史さん(林S51卒)、再任の林重昭さん(農S43卒)など合わせて7名が選ばれました。

地元の郡山女子大学の副学長を務めた山田幸二さん(総農S31卒)の乾杯の音頭で始まった懇親会では、大いに酒を酌み交わしながら、峰ヶ丘時代の思い出や互いの近況などの話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

最後に會田充茂さん(林S63卒)のリードで「大学歌」を4番まで高唱し、理事を退任することになった本多忠紀さん(畜S38卒)の「出席していない周囲の会員に声をかけよう」という締め言葉で閉会しました。

今年の総会は平成27年11月28日(出)に福島市内の「フロンティア」で開催する予定ですので、県内在住の同窓生の多

くの皆さんの出席をお願いします。

事務局長 後藤達夫(農経S46卒)

TO
YAMA

富山支部同窓会

平成27年度

平成27年8月7日(金)、富山市内の「シャトー(とやま自遊館内)」において会員6名の参加により、富山県支部同窓会を開催しました。

天野支部長(林学科昭和45年卒)の挨拶に続き、前年度の決算を報告し、承認されました。

記念写真撮影の後、引き続き同会場で行った懇親会では、一年ぶりに再会するいつもの顔ぶれ同士、健康や趣味の話に花が咲き、楽しいひとときを共有しました。梅原氏(農学科昭和35年卒)の一本締めで中締めを行い、名残惜しみつつも、来年の参加人数増と再会を約束し、盛会のうちに終了することができました。

幹事 亀田 政宏(森林科学H8年卒)



オープンキャンパス

宇都宮大学オープンキャンパスが2014年7月20日(月)に開催されました。農学部では学部・学科の説明、模擬授業、研究室紹介パネルの展示、入学相談などがあり、多数の来場がありました。



クラス会 (15クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。



総合農学科第8回生 母校に集う

クラス会

(平成27年5月28～29日)

時折催されていた同級会は、この度久方振りに母校周辺で開催された。共に学び謳歌した昭和33～37年当時から様変わりした宇都宮周辺を訪ね、あわせて心身の変容ぶりを認め、余生を有意義に送るひと時を憩い、励ましあいながら活力蓄積の機会とした。

15名参加のもと、一部面影が再生された宇都宮城と清明館、二宮尊徳の功績を残す二宮桜町陣屋跡と資料館を見学し、真岡井頭温泉チャットパレスで宴と余興を楽しんだ。仲間からは、それぞれ居所から持参した新潟銘酒「久保田萬寿」、山梨産のサクランボ、真岡産アールスメロンの提供物を賞味し、皆喜色満面で気運、興味が最高潮に達した。

翌日は、満開の井頭公園バラ園を見学後、国指定史跡、飛山城史跡公園歴史体験館で鎌倉時代後期の歴史文化を見学してから母校を訪ねた。洋式庭園のメッカ、フランス式庭園で記念写真、そして当時、古川教授の情熱わき立つ憲法・法学を聴講した講堂に入り懐古した。JR宇都宮駅東の「ひょうたん寿司」で昼食をとり、1泊2日の同級会もアツという間に終了した。心残りの面もあったが、共に過ごした級友の和やかな眼差しに囲まれて、心を癒し明日への勇気とパワーを貰いながら旧交を温めることができ、しばし至福に浸ることができた。これで山梨、群馬、栃木と続き仲間の出身地を巡ったが、今後も毎年開催することになっている。

おわりに、石栗太准教授、同窓会事務局の多田様には、ご多用のところ母校の現況を丁寧にご案内ご説明頂き、心から深く感謝を申し上げます。 幹事代表 菊池 孝治



53年振り宇大庭園にて

写真左から (前列) 加藤 市根井 増子 柴 橋本
(後列) 菊池 高瀬 山口 吉田 北村 須藤
堀口 神永 金子 篠崎



農芸化学科19回生 クラス会報告

クラス会

農芸化学科19回生クラス会を2014年10月23日に、秋田県

角館市の芸術村温泉「ゆぽぽ」で行いました。幹事は能代市在住の児玉孝四郎君。

新幹線や空路で小京都角館入りし、「わらび座」のミュージカル『げんない』を鑑賞しスタートしました。国内でミュージカルを専門に演じているのは「劇団四季」(東京)、「宝塚歌劇団」、「わらび座」の3ヶ所です。切符の手配で御苦勞なされた幹事長に大アッパレ!

一次会は宴会場で時間たっぷりの近況報告&会食&カラオケで大盛り上がりでした。その流れで、二次会は幹事部屋に於いて all night alcoholic meeting でしたが、話は尽きず眠る暇もないほどでした。

翌日は武家屋敷を見学し、昼食は美味しい蕎麦でお開きとなりました。

孤軍奮闘され楽しい会を企画・立案して戴きました児玉幹事長には感謝&大感謝でございます。

酒を飲む暇もないほど写真を撮りまくり、アルバムを作ってくれました中島君どうも有難うございました。専属のカメラマン! お疲れ様でございました。

その他、角館に御参集された皆様、遠路遥々お疲れ様でございました。

今年は関口君&糸川君が幹事で11/5宇都宮&益子の開催です。初日は宇大に集合し、久しぶりに「峰ヶ丘」の空気を吸い、キャンパスのそぞろ歩きをし、学生時代を思い起こすという壮大なツアーです。 全員参加の下に楽しいヒトトキを過ごしましょう。

角館参加者: 阿部・小川・糸川・児玉・鈴木節子 (=五百部)・高崎・中島・福島・三好・山田・斎藤
=11名=



尚、欠席者中心のミニクラス会も是非という要望があり、私が一肌脱いで人集めに東奔西走しました。猛暑の栃木市で行い、角館欠席者5名を含め12名が参加し、二次会のカラオケ店大熱唱を含め大いに盛り上がりました。

ミニミニクラス会参加者:

阿部・井上・小田部・金子由利子 (=林)・糸川・渋谷・高崎・福島・三好・山路・山田・斎藤
幹事 斎藤 光 <2015年葉月記>

3

農学科第6回生

クラス会

クラス会報告

昭和33年度卒業農学科クラス会を実施した。平成7年に始め今年で21回目。

日時：平成27年7月6日(土)～7日(日)

場所：伊香保温泉 福一

参加人員：16名

幹事持ち回りで今年は群馬県が幹事で、クラスメイトが5名おる。

1名は体調不良で参加出来ず、4名で対応した。

卒業生38名、死亡者14名、現在24名、参加者16名、参加率67%は良い方ではないかと自負している。

10名を切るまでは継続しようと、申し合わせた。

話に花が咲き一夜を語り明かし、1年分の英気を養った。

既に傘寿を迎えた者、これから迎える者、共々参加者は元気である事の幸せに感謝し合い、来年度茨城での再会を誓い解散した。

翌日は、自由参加で10名のものは世界遺産に記載された富岡製糸場を見学した。

群馬県では古くから養蚕、製糸、織物と言った絹に関する営みが盛んで、絹産業に関する文化遺産が数多く残っている。これらの内富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴を構成資産とする「富岡製糸場と絹産業遺産群」は平成26年(2014年)のユネスコ世界遺産委員会で世界遺産一覧表に記載された。 幹事代表 中嶋 朗



4

雄大な那須高原に遊ぶ

クラス会

(5/15~16) 新農第7回同期会

昭和34年に卒業して以来、56年もの年月が経過したことになる。今度の同期会は多分最後の機会になるだろうと思っていた。案の定参加者はこの写真の通りわずか6名であった。

すでに11名の物故者を数えてしまったが盟友のご冥福を心から祈るものです。

今回の実施に当っては、3月25日に篠原君と2名で「ホテルエピナール那須」の下見を行った。家族や、身内の結婚式等で何度か利用していたが、新幹線との交通アクセスが便利なこと、その他ロケーション等が那須を選ぶ要件となった。

体調不良等で今回不参加だった諸兄には、残念なことだが、夕餉の宴で旧交を温め、語り合った翌日は、那須「八幡のツツジ」の大群落を堪能することができた。

ここは、「かおり風景100選」に入っているツツジの名所で、13haのエリアに20万本ものヤマツツジ、レンゲツツ

ジ等が咲き誇っている。当日も丁度雨が上って、絶好のツツジ日和となった。雄大な那須連山を背景に、紅く紅く今が盛りと咲くさまは、本当に訪ねてきて良かったと満足させるものだった。

近隣のホテルで小休止のコーヒータイム。

今回で最後にはせず『いつでも又、青春の想い一杯の宇都宮で会いましょう』と約束して帰路についた。再会を楽しみに!! 文責 岡本 安之

追伸—当日急遽欠席となった安田君から、(前日の夜奥さんが救急入院) 壹萬円の心付けを受けましたので、現金で参加者に一部を還元させていただきました。以上ご報告まで。



左から 久保田 篠原 大塚 草薨 三浦 岡本

5

畜産学科15回生

クラス会 (昭和38年度入学) クラス会

期 日：平成27年6月15日～17日

会 場：うつのみやロマンチック村及び鬼怒川温泉

北へ南へ、東に西にと毎年続く同窓会(クラス会)。同窓生の故郷各地を巡り何十年ぶりに栃木の地、宇都宮に戻り着きました。進化発展した宇都宮大学校内を一巡りし、懐かしいフランス式庭園周りを散策し、楽しみの宴会へ…。来年は、山梨・甲州の地にて元気に再会することを約束し、栃木路での楽しいクラス会をお開きに致しました。

同窓の皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

幹事 長井



写真配置(後列) 藤原 坂本 鴨志田 佐々木 見坊
市村 佐藤 佐伯 長井
(前列) 小林 佐藤 佐々木 坂井 早澤
早澤 長谷川

6

畜産学科12回 (昭和39年3月) 卒同級会報告

クラス会

昭和39年に卒業し、50年目となった昨年11月21日から22日にかけて鬼怒川温泉で同級会を開催した。卒業生は27名であったが、50年目となると物故者も3人となり、また連絡の取れない者も3名あり、最終的に連絡できたのは、21名となった。

全員70歳を過ぎると、体調が優れない人や伴侶の介護など出席出来ないと言う人も多く、8名の出席となった。6時からの宴席では、研究室や彼女の話など昔話で学生時代に戻り、また、家族や体調など現況報告などに花が咲きました。昔ほど酒量は進まなかったが盛り上がり、全員二次会で益々親睦を深めることができた。

翌日お互いに健康に留意し、より多くの同級生での再会を期して散会となった。 担当幹事 藤田 繁



7

畜産科第16回 (昭和43年3月卒) クラス会報告

クラス会

平成26年6月20～21日、幹事の小生、小原實が勤務している宮城県の蔵王酪農センター（一般財団法人）で24名中19名ご婦人3名計22名が参加し盛大に開催した。既に5名が鬼籍に入っていて、我々はその仲間の無念を胸に、改めて頑張る事を心に誓った。

ちょうど同財団のバラが満開時期に当り、400株1,800本（東北一）の花を楽しんだ。（特にご婦人達はバラを愛でる方が多い）クラス会は50才代の後半から毎年持ちまわりで開催してきた。数え年70才が古稀なので全員のクラスメイトが古稀以上になった。古稀とは古来稀なり…であるが日本人は最近、寿命がのびて80、90才はザラにいるので古稀（古来稀なり）とは言わず“近ザラ”（近年70才はザラにいる）と言うのが正しいそうだ。6掛か7掛が実年齢との説がある。（70才×6又は70才×7・42才から49才が実年齢）クラスメイトは皆若く見える。但し、あまり若づくりは大人になりきれないことに疑問が残るので手放して喜んでもらえない。東北新幹線白石蔵王駅で6人が下車、マイクロバスで迎えた。16名がマイカーで直行した。到着後、昼食は同財団のレストランでスイスのチーズ料理ラクロネット（モッツアレラチーズ焼）を食べその後モッツアレラチーズの製造実習体験。（故・大武教授の畜産製造学以来の事）このくらい真面目に取り組めば学生時代全員「優」まちがいなし。

5時間かかるのでその間に専門家のバラの説明を聞きながら鑑賞した。（イングリッシュ・オールド・ハイブリッド・チャイナ…）製造終了後、研修施設の蔵王高原荘（その日の宿泊所）で終日かけ流しの温泉に浸かり会食、カラオケ熱唱、宮城県的美酒に酔い夜遅くまで口角泡を飛ばしてのダベリング。翌朝は施設見学、蔵王連山のお釜（これがよく見えた）昨年新設の島川記念館で館長の説明つきでシャガール・ルノワール等一流画家の美術品鑑賞、こけし館見学の後、同財団のパニールチーズ入りインドカレー、蔵王爽清牛のハンバーグを食べ、製造したモッツアレラチーズを土産に来年は群馬県で再会を約し、帰途ついた。

クラスメイトよ!!まだまだこれからだ!!共に頑張ろう!!
 山口県：大塚茂生、京都府：野々口（旧・井上）忠之
 富山県：斉藤（旧・久田）堅伸夫妻、埼玉県：手塚忠昭
 東京都：田谷昭、千葉県：高梨（旧・藤田）勝
 群馬県：片貝勝夫妻、栃木県：石崎忠道夫妻
 窪田秀人、佐藤隆、関昌弘、鈴木正銜
 茨城県：小里修、相馬由和、滝沢佑司、間山裕司
 岩手県：佐々木正征、秋田県：河西直樹
 宮城県東京往復：小原實

以上22名
 幹事 小原 實



8

農芸化学科第32回生 クラス会報告

クラス会

農芸化学科第32回生（昭和59年3月卒業）は、平成26年2月22日に栃木県鬼怒川温泉「きぬ川スパホテル三日月」にて、恩師の加藤先生と田中先生を招待し、総勢20名で卒業後30年の節目にクラス会を開催いたしました。今年は2月に入り、2週目・3週目の土曜日が、関東地方は記録的な大雪に見まわれ、クラス会開催が危ぶまれましたが、当日は雲一つない澄み切った青空の快晴となりました。開宴にあたり両先生から、現役当時と変わらぬ厳しくかつ暖かいお言葉を頂戴し、その後、参加者の近況が報告され、特に、仕事、家族、健康法などの自慢話で大いに盛り上がりました。宇大グッズ（宇どん、宇大浪漫（焼酎）等）が当たる「お土産争奪ビンゴゲーム」を行い、家族へのちょっとしたお土産に皆さん大変満足した様子でした。2次会では、学生時代の写真をスライド上映し、当時の武勇伝に話は尽きず、日付が変わるのも忘れ楽しい時間を過ごしました。次回は、還暦前に行くことを約束し、翌朝散会となりました。 幹事 山田 博之



9 卒業50周年記念同窓会 「濁り酒会」

クラス会

宇都宮大学農学部林学科

第12回（昭和39（1964）年3月）卒業

昭和39年3月に卒業した、林学科生35名の内12名（〔注〕写真説明）は、去る平成26年11月18日（火）、東京上野公園の不忍池の畔にある文豪、森鷗外（本名：森 林太郎）ゆかりの宿、水月ホテル鷗外荘に参集して、卒業50周年を記念した同窓会（濁り酒会）を、盛大に挙行了た。

青森や神奈川などから三々五々集まってきた濁り酒会の仲間達は、ホテル中庭にある旧森鷗外邸と舞姫の間や舞姫の碑などを見学し、部屋でくつろいだ後、天然鷗外温泉の浴槽で、卒業後50年間の汚れや垢を落として、宴会場に集合した。

まず記念写真を撮影してから、幹事の開催挨拶、乾杯の音頭で、賑やかな濁り酒会は盛り上がった。そして舞姫による日本舞踊に見とれて箸は止まったが、美味な懐石料理に舌鼓を打ちながら、ビール、日本酒、ワイン、焼酎、ウィスキーと酒量は弾んだ。しかし流石に学生時代の名だたる酒豪達の面影は、残念ながらほとんどない。そして、引き続き二次会は全員が幹事部屋に集まり、夜更けまで飲みかつ語りあった。

翌日の朝食後は、西洋美術館や科学博物館、恩賜上野動物園などの文化施設が集中して立地している上野恩賜公園の一部と、不忍池周辺を散策した後、時の風が吹く庭園といわれる重要文化財旧岩崎邸庭園と、その中に聳える洋館、和館、ビリヤード館などを見学して、来年の神奈川県内で開催する濁り酒会まで、お互いに元気で再び会うことを約束しながら散会した。今回は、卒業50周年記念に相応しい充実した同窓会。ますます元気となる糧を充電することができた濁り酒会になった。（文責：大崎俊彦）



〔注〕写真説明

前列右から：依田久司君、増子博君、小野隆一君、菊池政泰君、寺内静恵君、手嶋潤一君

後列右から：井波彬訓君、高野佳延君、角田修道君、齋好嗣君、大崎俊彦、鈴木文益君

幹事 大崎 俊彦（林学科S39年卒）

10 第11回農学科（昭和38年卒業） クラス会 クラス会開催報告

平成26年11月4～5日の二日間、埼玉県川越市「湯遊ランド・ホテル三光」で第11回農学科（昭和38年3月卒業）のクラス会を開催しました。私たちのクラス会は卒業後、オリンピック開催年度に合わせて4年ごとに関東周辺で開催してきました。加齢とともに間隔が長すぎるとの意見があり平成16年からは毎年、各人在住の地で行う事として、今回は埼玉県での開催でした。

級友が東京都をはじめ宮城、千葉、群馬、神奈川、静岡、神奈川、茨城、長野、栃木の各県からはせ参じ、地元埼玉県を含め20名（同伴者1名）の参加でした。卒業後51年目、それぞれの風貌の変わりようが挨拶代りとなり健康での再会をたたえ合いました。呑むほどに、酔うほどに学生時代の思い出に花が咲き、カラオケに興じ、学生当時のままの時間を過ごすことが出来ました。翌日は「小江戸の川越市」と称される古き町並みを散策する人、近くのゴルフ場で懇親ゴルフに興じる人など楽しいひと時をすごしました。次回、平成27年は茨城県での開催を決定、再会を楽しみに散会しました。

今回の参加者

青木一郎、池田昭彦、石原正敏、岩崎征夫、黒須泰久、金忠男、斎藤一三、水谷信、鈴木計司・芳江夫妻、奈良眞道、二階堂建、島山富治、古橋嘉一、佐々木征男、三田村正敏、山口祐司、吉田（西山）辰雄、吉田義夫、渡辺就治

文責 佐々木征男



11 林学科昭和51年入学生 （第28回生）クラス会報告

クラス会

卒業し早35年、5回目となるクラス会を平成26年9月27日～28日、太平洋が一望の茨城県大洗町の「オーシャンビュー大洗」で、開催致しました。

今回は、山形県からの家族連れ、京都府や兵庫県など全国から21名で丸林の法被持参9名。宴会前の総会で時期開催を皆が60歳を超え定年を迎える3年後の2017年、宇大を

訪問できる栃木県に決定。総会前からビールで事前のノドしめしを十分に行いつつ、宴会に突入。全員の近況報告から、コーラス部の来栖、斎藤渉の格調高い校歌と続き、そのまま、幹事部屋での2次会に突入、2:30AM頃お開き。翌日は、朝食後、アクアワールド大洗や那珂湊おさかな市場へ、希望者には、竜神大吊橋のバンジージャンプ、袋田の滝、偕楽園などを案内。今回、既に退職された方や、体調を崩された方、親の介護ほか様々な事情で出席できなかった方も、次回3年後の栃木で再会できる日を楽しみにしております。

同窓会幹事長 榎田 行宏
幹事 水越 健夫
幹事 金井田俊男



写真左より

後列：水越、来栖、羽山、松末、矢部、田中、斉藤倫明、
斉藤渉、大金、金井田、梅津

中列：榎田

前列：巻田、高木、麓、藤本、石井、小牧、黒田
有森、石川

幹事 水越 健夫

12 林学科（昭和46年3月卒） 第1回クラス会報告

卒業以来交流を続けていた林工4人組（石見、佐藤、横松、私）が、全員リタイヤをした記念に中禅寺金谷ホテルで慰労会をした。いつものことながら昔話に花が咲き、卒業以来一度も開かれていない同窓会の幹事をしようということになった。

事務局を買って出た中津川（材質）の尽力もあり、平成26年7月12日、宇都宮市内のホテルニューイタヤにて開催する運びとなった。

「誰だっけ？」と、お互い見つめ合う。「お前、頭しか変わってないから分かる」と、頭頂部を見合う。数分後には、まったく違和感なく笑顔で話している。40数年を経ても仲間なのだ。500円会費のコンパでスプリングソングを放歌高吟し、ベトナム反戦の仮装行列で市内を練り歩いた仲間なのだ。

専門課程になると林学コース、林産コースに分かれるため、あまり言葉を交わした記憶のない仲間も入学当時の紅顔の美少年のころの面影に戻る。

飲み放題のサービスメニューにも手を付けず、声高に話し、大学歌、林学科の歌、コチャ工節と続くころには、ギターも飛び出し、幹事の中締めの声も聞こえないくらいの大盛り上がりであった。

参加者からの「よくぞ呼びかけてくれた」の声に、幹事一同「やってよかったね」と胸をなで下ろすやら、胸を熱

くするやら。

対象者40名中、参加者22名、都合により欠席者7名と連絡が取れた。

次回は愛媛県在住の鶴見（林政）が幹事を買って出た。次回も盛会であるよう祈りたい。 文責 稲葉 二郎



13 農化16回卒生 台湾にて遊ぶ クラス会

我がクラス会開催が級友在所をほぼ一巡したのを機に、天津以来二度目の海外クラス会を台湾で実施した（11月30日～12月3日）。晩秋の成田空港から高雄に向い、沖縄からの渡嘉敷君夫妻と合流し三晩連続の紹興酒によるクラス会の幕開けとなった。約一年ぶりの再会で会話も弾み、恒例の柴田君のオカリナ演奏を楽しみ、あっという間に一次会を終了。その後六合夜市、夜景の美しい愛河を探索、宿に戻り幹事部屋にて男性全員の参加により、旅の疲れを忘れ夜が更けるまで二次会を堪能。二日目は台中で、三日目は台北で同じ顔ぶれで夜更けまで酒を酌み交わし、飽くことなくお喋りを繰り返し、ご夫人方の失笑をかうほどの盛況。しかも、昼日中は名所旧跡を観光して歩き、買物を楽しみ、農水産物の市場視察を实行。今回は、特に夫人の参加が多く、夫人間の交流も盛んとなりました。次回クラス会は、今回参加できなかった方の参加、多くの御夫人の参加を願っております。参加者は伊東、榎本、柴田、田中、箱山および家族同伴の大滝、北村、清水、渡嘉敷、橋本、樋浦の総勢18名。 幹事 樋浦・箱山



14 世界遺産「韮山の反射炉」の 伊豆の国市で開催

農学科 8 回生クラス会

平成27年5月19日～20日に熱海温泉以来43年振り2回目開催静岡県で開催した。

栃木・群馬・埼玉方面の参加者は、小田原から熱海までの直通運転の電車を利用。新幹線は北陸新幹線開通の富山と滋賀愛知だけで、午後2時頃皆宿に到着した。

参加者は13名 欠席者は体調不良等の8名。部屋割り毎休息。宴会前も宴会中も賑やか。宴会中に、来年28年のは東京築地市場を中心に開催する案を増淵君から連絡。(28年4月11日実施予定)またカラオケの歌もよく聞こえない位の宴会場状況。幹事部屋の二次会は、種々の話題が飛び交い昔の話題・最近の話題で気がつけば風呂が終わる時刻になり、お開き。温泉入り帰ると皆寝ている。朝6時に朝食を30分早くお願いしたので、朝食会場は我々だけ。タクシーに分乗して 世界遺産に登録候補(7月に登録される)の韮山の反射炉跡へ。入場前に記念写真を撮る。各人解説を聞いたり・大砲のレプリカを触ったり、仲間と記念写真を撮り施設前にて解散する。クラス会は今回で21回目であり、世界遺産の施設見学は日光に次いで2回目。静岡でのクラス会の開催が世界遺産の登録年、前回の熱海の花火祭り^{えがのひでたつ}と皆が印象になるクラス会になったと思う。開催して良かった。江川英龍の活動した時代は、反射炉を建設し、欧米の圧力に対抗すると言う背景でお台場に設置する大砲の^{えがのひでたつ}鑄造を推進するものだった。現在の防衛あり方の論争と似ている。 幹事 櫻井 要



韮山の反射炉(1957年完成二基の塔状)
銅像は江川坦庵(英龍)

15 畜産学科第4回(昭和31年3月)卒業 「畜四会」新緑の鬼怒川温泉に集う

私たちのクラスは、入学した者は30名でしたが、休学・他大学への転校などで、卒業時は23名となりました。しかし別れた7名のうち5名の消息は判っていたので、28名で「畜四会」を結成し、交友を暖めてきました。

9名は鬼籍に入り、現在会員は19名となりました。

昨年(平成26年)10月30日、千葉君や高橋君の音頭で大

宮市にてミニクラス会を開催し、下地ができたので、平成27年5月17日(日)、10年ぶりにクラス会を開催し、10名の者が新緑香る鬼怒川温泉に集いました。

宇都宮からバスにて竜王峡の虹見の滝を見学、新緑を堪能しましたが、200段を超える階段に、傘寿を過ぎた者には些か体力を使いました。

その後慈眼寺(じげんじ)のぼけ除け地藏尊を参拝。日光市文化財指定の「十一面観世音菩薩増」「不動明王像」「釈迦涅槃図」などを拝観後宿へ向かいました。

祝宴では近況報告のみで時間切れ。カラオケのマイクを握る時間もなく、幹事部屋では12時を過ぎるまで焼酎を酌み交わしました。

翌18日は母校を訪問。分刻みの日程の杉田農学部長にはご多忙中のところ、大学の現況の詳細なご説明や、改装された講堂前では記念写真を撮影下さり、校内などのご案内頂き、厚く御礼申し上げます。卒業以来初めての訪問者もいて、往時の一般教養の合同授業を思い出し、感無量でした。

また、同窓会事務局では、多田様に美味しいコーヒーのおもてなしを受けて歓談し、時間の過ぎるのも忘れませんでした。重ね重ね厚く御礼申し上げます。早い機会に再会を誓い、名残を惜しみつつ一同帰路に着きました。

(平田君は宇都宮泊。翌日千葉県へ向かいました。地元今市の木村(勇)君と、常連の高橋君はご親族等の結婚式のため欠席。残念。その他欠席された皆さん、次回はぜひご出席の程を。祈念健勝)

写真は前列向かって右より関谷毅(鳥取大・獣)、金枝邦雄、井上正雄、橋本良仁、後列向かって右より千葉喜美夫(北里大・獣博)、佐藤邦郎、阿部博、大友(安部)鴻、齋藤馨、平田修一 文責 齋藤 馨



皆さまからのお便りをお待ちしています。

支援制度

第16回アジア大洋州畜産学大会に参加

生物資源科学科 教授 菅原 邦生 (畜産学科昭和48年卒業)

2014年11月11日から14日にインドネシア・ジョグジャカルタ開催された標記の会議に参加し、下記の演題で研究発表しました。Effect of adding fibrous ingredients to corn-soybean meal feed on the digestibility of energy in two-step *in vitro* method、Kunio Sugahara, Koharu Kurihara, Masami Yoneyama, Yusuke Sato and Fumiaki Yoshizawa.

この大会は2年に一度アジア大洋州畜産学会議に加盟している畜産学会が持ち回りで開催しています。私は4回目の出席で、初めて口頭発表しました。国内の学会でも発表する機会が少なくなってきたので、準備に時間をかけました。10分あまりの発表と数分間の質疑応答を無事完了でき安堵しました。

インドネシアはいわゆる新興国の一つで、この大会を成功させようという意気込みが感じられ、運営も素晴らしいものでした。会場では多くの学生が受付、案内、発表会場の支援等に当たっており、英会話力だけでなく気遣いもあり感心しました。また、発表会場ではインドネシア近隣の人たちは英語で活発に討論していることが多く、日常的に情報交換していることが感じられました。日本でも中国や韓国との交流を増やして、英語で議論する能力を磨く必要

があります。

11月中旬でしたが、日本の7月下旬のような気候で昼間はかなり暑かったです。食べ物はお米があるので、親しみやすいが辛いのが苦手な私には食べられないほど辛い調味料もありました。ジョグジャカルタにはブランバナソ寺院遺跡があり、町の中心から車で30分ほどのところに石のお寺が発掘あるいは修復されていて、石組みの構造と壁に彫られた像を目の当たりにして感銘をうけました。

今回ご支援をいただきました峰ヶ丘同窓会に感謝いたします。



チェコでの国際学会に参加して

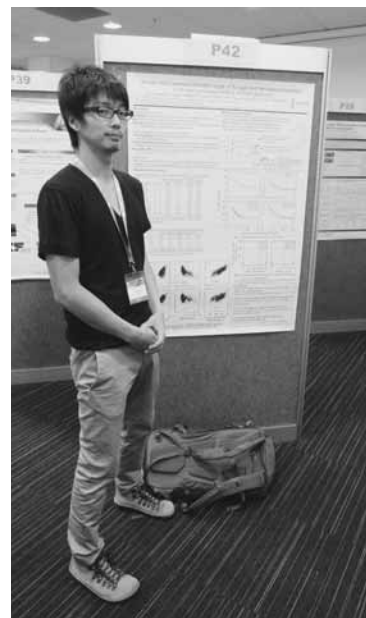
連合農学研究科 3年 木材材料学研究室 田邊 純

2014年8月25日から8月31日にかけてチェコ共和国プラハで開催された2014 IUFRO FOREST TREE BREEDING CONFERENCEにおいて、"Relationships between microfibril angle of S2 layer and mechanical properties in 10 open-pollinated families of *Picea jezoensis*" (エゾマツ10家系におけるS2層ミクロフィブリル傾角と機械的性質との関係)という題目でポスター発表を行いました。エゾマツは、北欧における主要樹種の1つであるヨーロッパトウヒと同属であるため、主にフィンランドやノルウェーの研究者が興味を持って下さいました。四苦八苦ながらも英語で会話したことは、海外の研究者と交流できたことに加え、自身の英語の向上にも繋がったと感じています。一方、もっと英語ができればより深い議論ができたのかな、という反省点もあり、今後に活かしたいと考えています。

学会主催のツアーでは、プラハからバスで1時間ほど移動し、ヨーロッパアカマツとヨーロッパカラマツの採種園を見学しました。見学後、何故か缶ビールを頂き、飲みながらピルスナービール発祥の地であるPlzenという街へ移

動しました。ツアーの中でも醸造所の見学がしっかり組み込まれており、再びビールを飲みながらの食事となりました。食事を終え、樹木園見学をすませたところでバスで移動し、予定より1時間押しでプラハに到着というみっちりなツアーを満喫することができました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をする機会にご支援頂き、峰ヶ丘同窓会に心より感謝申し上げます。



平成27年度理事会報告

平成27年6月27日(土)13:30より、宇都宮市内ホテルマイステイズ11階において、平成27年度峰ヶ丘同窓会理事会が開催された。以下、項目別に議事内容を記載する。

1. 開会

司会の大栗行昭庶務担当理事より理事会の出席、欠席および委任者数の発表があり、本理事会の成立を確認した。

2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者へ黙祷した。

3. 同窓会長挨拶

同窓会の現状として、国内の47都道府県に同窓生がおり、うち41の都道府県に支部があり、毎年10数件の支部から総会への出席要請があることを説明した。また、昨年大学祭期間中の11月22日に、第3回ホームカミングデーが開催され、3101教室で座談会を行った後に、農学部大会議室でウェルカムパーティーが開催された。また、昨年に学長選があり、今年4月、農学部長および宇都宮大学理事を経験された石田朋靖先生が新学長に就任された。さらに、宇都宮大学では、現在の4学部に加え、来年度、新学部「地域デザイン科学部」が創立されることが紹介された。

4. 議長選出

恒例に従い、満場一致で和賀井睦夫同窓会会長が議長に選出された。

5. 会務報告

金子幸雄理事長より、昨年度は、計11回の常任理事会を開催したが、各支部総会、宇都宮大学各学部連絡協議会、90年史の編纂委員会などに出席したことが報告された。また、峰ヶ丘会報152号を昨年10月に発行したことが報告された。さらに、教員支援（海外学会出席）1件および学生支援（栄誉賞表彰・海外学会出席）6件があったことが報告された。質疑応答なし。拍手をもって承認された。

6. 平成26年度決算報告及び監査報告

謝肖男会計担当理事より、一般会計、基本財産特別会計、名簿発行特別会計について決算報告がなされた。一般会計の歳入の新入生会費については、新入生は4月に入学する前に入金および終身会費が既に支払われていることが説明された。また、90周年記念事業費については、農学部から委託された金額だと説明された。その後、中島教博（工43）監事より、岡田武（畜45）監事および上田正人（生応H8）監事とともに、理事会に先立って行われた監査にて、通帳や帳簿類を確認し、適正に運営されている旨、報告された。また、質疑としては、大久保尚彦（環H12）理事より、一般会計の歳出の学生支援経費について、どのように支援が行われているか、また、学費に対する支援があるかの質問があった。この質問に対して、吉澤緑庶務担当常任理事から、学生支援経費は学生支援制度として、学費支援、見舞金、表彰などがあるが、会費を納入した学生が対象であることが説明された。次いで、外山武比古（林52）東京支部長より、一般会計の歳出の会員データ管理費に関して、最近個人データの流出が多い中、同窓会の会員データがどのように管理されているかの質問があった。多田彩子事務



局員から、同窓会会員のデータは事務局、または支部を通じないと取得することができないこと、会員データの管理は廣済堂に委託しており、会員データ管理費はそのための支出であることが説明された。さらに、外山東京支部長より、一般会計の歳出の慶弔費について、毎年約60名の同窓会員が亡くなっているのに対し、なぜ弔電はわずか12件しかないのかとの質問があった。これに対して、吉澤庶務担当理事から、慶弔費は事務局に通知があった時のみ支出する旨、回答があった。その後すべての質問が終わり、拍手をもって承認された。

7. 平成27年度予算案

謝会計担当理事より、一般会計、基本財産特別会計、名簿発行特別会計予算案が説明された。一般会計の歳出の母校協力費については、平成27年度は宇都宮大学基金への協力要請がないため、前年度より20万円減となることが報告された。また、他の項目については、前年度とほぼ同様であることが報告された。質疑としては、中根淑夫（獣20）理事より、90周年記念事業費について、90年史の状況および発行部数についての質問があった。これに対し、津谷好人（経45）理事は、90年史の原稿が終わり、現在細かな修正を行っているところである。発行部数は常任理事会において決定すると説明された。続いて、金子幸雄理事長は、90年史の発行部数に関しては、農学部と相談しつつ、必要な部数に応じて発行する。また、刊行後は、PDF版からいつでも必要な部数を印刷することが可能だと補足説明された。さらに、和賀井睦夫会長は、90年史は来年3月までに発行する予定だが、90年史は100年史に対する記録としての意味もあることが説明された。最後に、田中秀幸（化43）理事から、基本財産特別会計の金額の誤りについての指摘があった。謝会計担当理事から、後に訂正し、再報告する旨、回答があった。質問が終わり、拍手をもって承認された。

8. その他

新理事長（吉澤緑 畜50）、新常任理事（小笠原勝 農54）の承認可否が諮られ、拍手をもって承認された。

理事会終了後、同ホテル内3階の会場にて懇親会が、大栗行昭（経院58）庶務担当理事の司会により開催された。はじめに和賀井会長より、理事の皆様へ27年度も引き続きご協力いただきたい旨の挨拶の後、来賓の杉田昭栄農学部長からは、化学棟と雑草棟の改修終了に伴い、農学部の建物が全部新しくなったなどの説明があった。その後、中根淑夫（獣20）理事による乾杯の音頭で開宴となり、歓談後上野武二（工32）理事による万歳三唱で閉会した。

文責 会計担当理事 謝 肖男



下記の方々のご冥福をお祈り致します。
平成26年7月～平成27年8月現在までの物故者です。
各関係者からの情報をもとに、掲載しております。

農学科

- 農07：佐藤 七郎 農18：坂本 文雄
- 農20：小野寺尚一 農22：仁尾 宗夫
- 農22：渡邊 康行 農22：瓦井 豊
- 農22：福島 誠 農22：中山 原次
- 農24：齋藤 顯 農25：枝野 伸男
- 農28：和田 藤吾 農29：風間 弘文
- 農38：五十川隆之 農38：鈴木 計司
- 農42：松森 裕子 専農21：高橋 知
- 農52：森島 啓司

林学科

- 林19：田中 寛幸 林22：江口 与一
- 林22：原澤 昭 林23：西山 弘司
- 林23：熊木 信男 林24：岡 和弘
- 林26：永瀬 幸二 林26：細澤 一雄
- 林28：佐藤 泉 林28：増淵 丈夫
- 林28：室井 重雄 林35：木賊 安夫
- 林43：松岡 正 林57：奥村 孝

農業経済学科

- 経18：井坂 紀一 経20：荒井 政春
- 経24：野沢 泰夫 経29：松本 和夫
- 経31：増居 外也 経32：鈴木 利郎
- 経24：大山 猛 経28：疋田 栄悦
- 経32：荒井 守 経33：宮野 嵩

獣医畜産学科

- 獣18：萱嶋 武保 獣19：岡 茂夫
- 獣19：大木 敏一 獣20：鈴木 文男
- 獣24：磯 康一 畜28：倉澤 恒夫
- 畜29：松井 哲 畜32：添野 一夫
- 畜32：武藤 和夫 畜42：金盛 徹

農業工学科

- 土23：樋口 義男 土25：釜井 昭正
- 土25：新井 清一 土25：小嶋 元一
- 土25：八田部孝平 土26：中村雄二郎
- 工28：齋藤 幸一 工28：阿久津昭三
- 工32：小嶋 進 工32：加藤 徹男
- 工33：福田喜三男 工33：伊藤 徳男
- 工34：馬場 武兵 工37：木村 享
- 開45：赤間 猛

農芸化学科

- 化26：荒川 龍雄 化29：武久 喬
- 化46：井上 俊夫

総合農学科

- 総32：長阪淳之助 総37：高橋 重治
- 総39：田村 収蔵 総44：溝口 輝正

名誉教授

- 森谷 憲
- 内藤 俊男
- 細川 明

元教員

○会員数及び会費納入状況

(大正15. 3卒～平成27. 3卒)

会 員 数

	旧 制	新 制	計
卒業者数	3,560	14,551	18,111
物故者数	2,567	874	3,441
現会員数	993	13,677	14,670

会費納入状況

	旧 制	新 制	計
現会員数	993	13,677	14,670
納入者数	846	11,364	12,210
納 入 率	85.20%	83.09%	83.23%

在学生会員及び会費納入状況

	学 部	大学院	計
在 学 生 数	905	110	1,015
会費平均納入率	69.7%		

(平成24. 4入学～平成27. 4入学)

宇都宮大学「学生寮」について

大学HPに詳細が記載されています。
また、「学生寮」についてのお問い合わせ先は、以下学生支援課へお願いいたします。

宇都宮大学学務部学生支援課課外活動係

TEL：028-649-5097

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/benri/post_21.php

第4回ホームカミングデー開催決定のお知らせ

宇都宮大学

第3回ホームカミングデー開催の折には、多くの同窓生の皆様にご来校いただき心よりお礼申し上げます。ご参加いただいた方々からは大変ご好評を賜り、また大変ありがたいことに次回以降の開催を望む声も多くいただきました。なお、アンケート調査から大学祭との同時開催を望む声が多かったことから、第4回のホームカミングデーは、来年平成28年の大学祭開催期間中（平成28年11月予定）に開催すること致します。日程や行事の詳細につきましては、今後同窓会報や本学ホームページなどで随時お知らせ致します。今回の実行委員会は、「リピーターを増やすためのイベント内容の充実を図る」努力を申し送り事項としておりますので、今回ご参加いただいた方も、残念ながらご都合によりご参加いただけなかった方も、再び本学に「お帰り」いただき、思い出満載のキャンパスをお楽しみいただければ幸いです。お待ちしております。

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

叙 勲

平成25年秋 旭日重光章

◦ 谷 博之 (総農41卒)

平成26年春 旭日双光章

◦ 齊藤 重則 (林43卒)

平成27年春 瑞宝双光章

◦ 国分 和夫 (林24卒)

平成27年春 瑞宝双光章

◦ 浜 武人 (林23卒)

昇 任

◦ 房 相佑 (生物資源科学科 教授)

寄贈図書

◦ 「山登りで出会った昆虫たち とちぎの山102山」
稲泉 三丸 (農昭37卒)、随想舎 (2015)、四六版316頁

宇都宮大学オリジナルキャラクターの ご紹介



昨年、学内募集により寄せられた応募作品から、教育学部の茂木眞緒さんの作品が最優秀作品に選ばれ、宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇太(う~た)」が生まれました。

これからは、大学のブランド力を高め、宇都宮大学の魅力、情報発信力として、さまざまな場面に登場しますので、どうぞ応援してください。

慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

I. 慶事(褒賞、叙勲等)の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類(褒賞、叙勲その他の賞の種類)
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておりませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科、住所、電話等
2. ご遺族(喪主)の氏名(逝去者との続柄)
3. 通夜の日時、場所
4. 告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局
TEL：028(649)5400
E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp
月・水・金 9：00～17：00

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。

会報次号の発行は、2016年10月初旬の予定です。原稿の締め切りは、7月31日となりますので、宜しくお願いいたします。

国内最大のお米のコンクールで「ゆうだい21」が最高賞!

国内外の稲作農家が米のおいしさを競う「第16回米・食味分析鑑定コンクール 国際大会 in 田舎館村」で、最高賞の国際総合部門金賞に東北から4名が選ばれた。そのうちの、福島県天栄村の内山正勝さん(65)が、「ゆうだい21」で最高賞を受賞した。「ゆうだい21」は、宇都宮大学が開発して2014年に登録した品種で、内山さんは昨年初めて栽培した。15ヘクタールの水田を、繁忙期以外は夫婦で耕作。肥沃で水はけがいい土作りを心がけている、とのこと。

朝日新聞 東北版記事2015年1月8日

各県
だ
よ
り

編 集 後 記

今年は、このところ増えている異常気象により、去る9月10日、栃木、茨城、宮城県などが水害に見舞われました。該当地域にお住まいの皆様にご心からお見舞い申し上げます。今号は、第3回ホームカミングデーの特集です。昔懐かしい一面と今の農学部をご紹介できればと企画いたしました。お楽しみいただければ幸いです。(房 相佑)

こんなこと

やっています (その9) 生物資源科学科

平成3年の農学部改組で、農学科、畜産学科、農芸化学科を統合した生物生産科学科は、植物生産学・応用生物学・動物生産学・応用生物科学の4コースからなっていました。しかし、1年次生の修学目標が二極化する実態が明らかとなった点、卒業生の進路がコースによって大きく異なる傾向が認められた点から、平成25年度より生物生産科学科を母体として「生物資源科学科」および「応用生命化学科」を新たに設置することにしました。

生物資源科学は、食料等の人の生活資材を生産する生物資源に関するさまざまな事象を解明し基本的・応用的な教育研究を行う学問分野です。大量かつ効率的生産技術の向上と、気候変動に対応しつつ生産を維持する持続的な生産や食品・食材の安全性重視などの社会的な要請にこたえる技術の開発にも貢献しつつ発展しています。現在、食料などの持続的生産技術を開発する分野の諸課題を明らかにし、合理的な解決策を提案できる人材の養成が社会的に求められています。それを支える生物資源科学は、社会的・学術的なニーズが非常に高いと考えられます。そこで、植物生産学、動物生産学、応用生物学コースを母体とした学科を設置することとしました。

生物資源科学科の教育プログラムは、1年次には、基盤教育科目と専門導入科目に位置づけられる農業と環境の科学、農学部コア実習、生物資源の科学を必修科目として配します。また、生物資源科学の基礎科目として植物生産学概論および動物生産学概論を、バイオサイエンスの基礎科目として生物学（概論）、生物学（細胞）、基礎分子生物学、生物化学（生体成分の化学）、化学通論などを必修科目として配します。2年次には、専門教育科目として、生物資源・生産環境・生物機能・生物生産技術に関連する科目を配します。実習科目として、2年次～3年次前期にかけてフィールド実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを配します。実験科目として、2年次に生物科学実験、分子生物学実験、分析科学実験を、3年次前期にはアグリバイオサイエンス実験を配します。3年次後期から4年次にかけては、生物資源科学を総合的・多面的に理解して、地域や地球がかかえる諸問題を解決するための最新の技術と研究の情報に触れ（特別演習など）、一連の研究活動の実際を経験する（卒業論文）中で、生物資源科学に関する専門職業人となるための能力を身につけます。

生物資源科学科では、現在3期生が入学したところで、まだ卒業生を社会に送り出すまでには至っていませんが、よりよい人材を送り出せるよう教職員一同、一層精進致しますので、皆様方からのご支援、ご指導を何卒よろしくお願い致します。

(文責：生物資源科学科 平井英明)



新入生オリエンテーション
(平成27年)



井頭公園での厚生補導のひとコマ
(平成27年)

- ◆ その1 附属農場 会報第145号
- ◆ その2 雑草科学研究センター 会報第146号
- ◆ その3 バイオサイエンス教育センター 会報第147号
- ◆ その4 里山科学センター 会報第148号

- ◆ その5 附属演習林 会報第149号
- ◆ その6 農業環境工学科 会報第150号
- ◆ その7 農業経済学科 会報第151号
- ◆ その8 森林科学科 会報第152号